

着る人のモチベーションや 気分が上がるユニフォームづくりを目指して。

背山知生

商品企画



もっと生の声 Q & A

—— やりがいを感じるのは、どんな時ですか？

イメージ通りの生地ができ、商品が完成した時です。また、街やTVでシユーピーの商品を着用している方を見た時です。

—— 入社してみて感じたこと、気づいたことはありますか？

学生時代は、授業で1着をきちんと作り上げることだけを考えていましたが、入社してからは、性別・年齢・国籍など幅広い層に受け入れられるデザインや企画が必要だということ、パターンについても量産する際の生産性や効率性を考慮したものでなければならないこと。この2点です。

相反することもしませんが、一定の制約がある中で、多くのアイデアを出し合い、商品に取り入れていくことは、定番商品を企画していく面白さのひとつですね。

—— 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。

華やかな仕事ばかりではないですが、部分的にでも自分が好きな事を仕事にできるのは素敵なことだと思います。また、自分が携わった商品が世に出ていくことには大きな感動があります。

服が好きで服飾の学校に進んだという背山さん。学生時代にスーツ店でアルバイトをしていた時に試着室から出てきたお客様の表情を見て、「人は着る服によってモチベーションや気分を上げることができる。」という魅力を実感したことから、現在のユニフォームメーカーに入社を決めたといいます。

入社後は、カタログ撮影、ホームページ・ECサイトのリニューアル、海外工場での検品、営業同行などを経験し、現在は定番商品の企画を担当。業務は、市場調査から始まりデザイン検討、材料の選定、機能や仕様の検討など多岐にわたります。入社当時から商品企画に携わりたかったと話す背山さん。「働く人たちが抱えるユニフォームに対する問題を解決する機能性やデザイン性を持っているか。出来上がった商品を本当に自分が着たいと思えるか。」を常に意識して今の仕事を行っているそうです。「業務は大変ですが、納めた先のことも考えて、お客様に寄り添ったものづくりができるのはシユーピーならではと感じています。また、売れるかわからない段階でも自分の意見を取り入れてもらえるところも有難いですし、社内の人やお客様に自分の思いが伝わった時はやりがいを感じます。」「今後は、自分が担当している運送業向けのブランドが、運送業のユニフォームといえば”弊社のブランド“と誰もが知っているブランドとなってほしいです。」

